

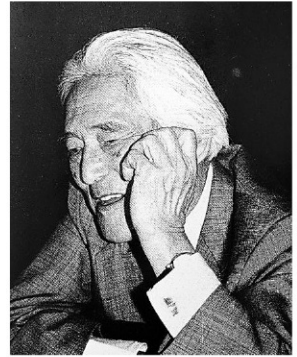
敦賀出身、現代詩人賞など受賞

藤原定の4編 合唱曲に

敦賀市出身の詩人、藤原定(1905〜90年)の功績を広く伝えようと、定の詩に曲を付けた合唱曲が完成し、このほど東京都内で初披露された。古里敦賀を愛し、故郷の自然をテーマにした作品を数多く残した定の詩の世界を、プロの声楽家が高らかに歌い上げ、

多くの聴衆を魅了した。

プロ声楽家が初披露 東京



藤原定

多くの聴衆を魅了した。

「敦賀の偉人である藤原定の作

品を歌にして、後世に伝えたい」に生まれ、敦賀商業学校(現敦賀高)を経て法政大に進学。大学在学中に詩作を始め、79年に発刊した詩集「環」で日本詩人クラブ賞、90年には詩集「言葉」で現代詩人賞を受賞した。法政大教授を務め、評論家としても知られるなど活動は多岐にわたり、同市手ノ浦には定の功績をたたえた詩碑が建てられている。

と、東京敦賀人会の増山彦次さん(73)＝横浜市在住＝が、妻でピアニストの歌井さん(69)を通じ作曲家の壺井一歩さん(39)＝埼玉県在住＝に曲を依頼。壺井さんは、定の第4詩集「吸景」の中から、海をテーマにした「言葉のきれぎれ波頭」来ませんか ぼくの海へ」など4編に曲を付けた。

「詩の世界をどのように音楽で



敦賀市出身の詩人、藤原定の詩の合唱曲を披露したコンサート＝18日、東京・台東区のミレニアムホール

表現するか難しかったが、作品にちりばめられた言葉の魅力に助けられた」と壺井さん。詩を何度も読み込みイメージを膨らませ、約1カ月かけて書き上げたという。完成した曲は18日、壺井さんと親交のある指揮者の安達陽一さんが主宰するコンサートで披露。男女11人のプロの声楽家が、ときに荒々しく、ときに優しい表情をみせる古里の海を描いた定の詩を、情感たっぷりに歌い上げた。

会場には定の親族6人も駆けつけ、長男の藤原農さん(80)＝東京都に住＝は「父はクラシック音楽が好きで、よくレコードを聴いていた。このようすすばらしい曲になり本当にうれしい」と感慨深げ。増山さんは「定の詩の世界を、敦賀の人たちにも知ってもらいたい。地元でもぜひ、この合唱曲を披露できたら」と話していた。

(佐藤哲也)